

## 【経営学部】令和6年度 FD活動の「年間報告」

### 1. 学部独自のFD活動についての報告 (\*は必須項目)

#### (1) 公開授業・ワークショップ

経営学部では例年、新任教員への教学サポートも兼ね、新任教員からリクエストがあった科目を公開授業の対象として選択している。そして新任教員には、公開授業に加えてワークショップにも参加していただく形をとっている。令和6年度も、そのような形で実施した。

##### ① 公開授業

###### (a) 涌田龍治先生「消費者行動論」（春学期）

日時：令和6年6月4日(火) 4時間目（15:00－16:30）

場所：5302教室

参加人数：7名

###### (b) 久保亮一先生「戦略マネジメント・ケース分析」（秋学期）

日時：令和6年11月8日（金）5時間目（16:45－18:15）

場所：5302教室

参加人数：7名

##### ② ワークショップ

###### (a) 涌田龍治先生「消費者行動論」（春学期）終了後のワークショップ

場所：5号館2階ミーティングルーム2

参加人数：7名

意見交換内容：講義実施時の工夫や課題等について、30分程度質疑応答と意見交換。

###### (b) 久保亮一先生「戦略マネジメント・ケース分析」（秋学期）終了後のワークショップ

場所：演習室

参加人数：7名

意見交換内容：ケース分析科目独自の課題やその対処方法等について、30分程度質疑応答と意見交換。

#### (2) その他研修会等

経営学部では毎年度、教育FD委員を設置し、教育FD活動を実施している。そして教育の基盤は研究であることを踏まえ、研究FD委員も併せて設置し、教授会が開催される第3水曜日の昼休み（12:30～13:00）を利用して、学部として例年研究FD活動を実施している（「パワーランチ」）。ちなみに、パワーランチのうち春学期と秋学期の各1回については、教育FD活動に充てている。令和6年度も、そのような形で実施した。

なお上記以外にも、全学FD/SD研修会については例年教授会で周知を図り、参加を促すようにしている。加えて、公益社団法人私立大学情報教育協会が作成・配信している、教育方法、教材開発、大学改革の戦略、教育支援などに関するオンデマンド動画コンテンツについても教授会で周知している。令和6年度は、各自の目的にあった講義を視聴してもらい、感想を提出してもらった。

##### ① 教育FD活動

###### (a) テーマ「発達障害傾向のある学生への対応」（春学期）（大学院教育FDとの共催）

講師：米虫圭子様（学生相談センター主任カウンセラー）

日時：令和6年7月17日 12:30～13:10、30分レクチャー+10分質疑応答（zoom）

参加人数：18名

###### (b) テーマ「大学教育におけるコモンズ施設の利活用促進について」（秋学期）

講師：川面なほ様（教育支援研究開発センター ラーニングコモンズ担当）

日時：令和6年12月4日 12:30～13:10、30分レクチャー+10分質疑応答（zoom）

参加人数：22名（教員20名、職員2名）

② 研究FD活動（「パワーランチ」）

第51回（令和6年4月17日）

講 師： 西田喜平次先生

テーマ： 私大薬学部の入試戦略

参加人数： 16名

第52回（令和6年5月15日）

講 師： 新田隆司先生

テーマ： 歴史的な視点からみた冷凍食品産業

参加人数： 24人

第53回（令和6年6月19日）

講 師： 森永泰史先生

テーマ： サバティカル報告

参加人数： 14名

第54回 学部・大学院教育FD（令和6年7月17日）

講 師： 米虫圭子様（学生相談センター 主任カウンセラー）

テーマ： 発達障害傾向のある学生への対応 30分レクチャー+10分質疑応答

参加人数： 18名

第55回（令和6年10月16日）

講 師： 森口文博先生

テーマ： 何が大学のベンチャー支援を難しくさせているのか  
——効果的な支援を阻む二つのサイクル——

参加人数： 16名

第56回 学部教育FD（令和6年12月4日）

講 師： 川面なほ様（教育支援研究開発センター、ラーニングコモンズ担当）

テーマ： ラーニングコモンズの授業連携について

参加人数： 22名

第57回（令和6年12月20日）

講 師： 柴野良美先生

テーマ： 不正主体とガバナンス主体の関係性を考慮した実証分析

参加人数： 14名

第58回（令和7年2月25日）

講 師： 須賀涼太先生

テーマ： マーケティング分野における顧客コンプライアンス研究の展望

参加人数： 17名

第59回（令和7年3月17日）

講 師： 吉田裕之先生

テーマ： 調査・研究のバイ-プロ：『小ネタ』の話

～吉田が『ウロチョロ』してきたもう一つの足跡～

参加人数： 14名

③ 全学 FD/SD 研修会への参加

(既述の通り)

④ 公益社団法人私立大学情報教育協会オンデマンド動画コンテンツの視聴

(既述の通り)

2. 総括（今年度の学部 FD を通して得られた気づきや見つかった課題等）

今年度も多く教員・職員の方の協力のもと、充実した FD 活動を展開することができた。公開授業、全学 FD/SD 研修会および公益社団法人私立大学情報教育協会のオンデマンド動画の視聴では、他の教員の講義の進め方・工夫を知ることによって、自身の講義の在り方を見つめ直す良い機会となったという声が多く寄せられた。パワーランチは各教員の専門分野の話を聞くを通して、教員間のコミュニケーションを促進する良い機会となっている。

また学生への対応については、春学期の学部・大学院教育 FD 「発達障害傾向のある学生への対応」に参加することによって、当該学生への適切な接し方について知ることができ、秋学期の「大学教育におけるコモンズ施設の利活用促進について」では、これまで活用方法についてあまり知らなかっただけ、これから講義・ゼミで積極的に活用したいとの感想が聞かれた。

今年度の重点テーマは「教育活動における DX 活用の検討と実践」であり、この点についても各 FD 活動のテーマに沿って問題提起、議論がなされた。ただし情報技術については変化が大きく、引き続き定期的に議論を行うことが必要であるとの認識が共有された。

様々な FD 活動において寄せられた声に共通しているのは、定期的な FD の機会を持つことは重要であるものの、校務・講義などと重なり参加が難しいことがあったということであり、この点は今後解決すべき課題といえる。

3. 次年度に向けての取り組み

経営学部では、高い専門性と、諸領域を横断する知識や能力、視点、あるいは経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を結びつけ、イノベーションを通じて組織の発展・変革と社会の進化を促進する「統合的なマネジメント能力」を持つ人材を養成することを目的としている。

次年度も上記目的に合致する人材を育てるべく、FD 活動を行っていく必要がある。例えば教育活動の魅力向上策や魅力発信策といったテーマは、引き続き重要な問題となると考えられ、FD での情報交換や議論が必要となる。

各 FD 活動は、ライブ配信、オンデマンド、対面といった開催方法で行われたが、参加タイミングに制限のないオンデマンドが最も参加がしやすいとの声が多く、次いでライブ配信、対面の順であった。FD 活動は、講義やカリキュラムの改善・向上になくてはならないものであり、その効果を高めるためには多くの方々に参加していただく必要がある。開催方法にはそれぞれ長所・短所があるため、その特徴を見極めつつ、多くの参加者が得られるような形を模索しながら FD 活動を行っていきたい。

※この内容は当該年度終了後、本学における FD 活動の一環として、本学 HP に掲載します。